

20020329

別添2

厚生労働科学研究研究費補助金

障害保健福祉総合研究事業

障害者ケアマネジメントの総合的推進に関する研究

平成14年度 総括研究報告書

主任研究者 白澤 政和

平成15(2003)年 4月

目 次

I. 総括研究報告		
障害者ケアマネジメントの総合的推進に関する研究	-----	1
白澤政和		
V. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	5
IV. 研究成果の刊行物・別刷	-----	5

研究報告書

厚生労働科学研究補助金（障害保健福祉総合研究事業）
総括研究報告書

障害者ケアマネジメントの総合的推進に関する研究

主任研究者： 白澤 政和 大阪市立大学大学院・生活科学研究科・教授

研究要旨：14年度は、これまでのまとめと3障害分野（身体障害、知的障害、精神障害）を統合した地域におけるケアマネジメントシステムの構築を目的に研究を企画した。その結果、概念整理、重度障害者ケアマネジメント方法、実施機関の現状整理とあり方、試行事業分析による地域推進体制、アメリカにおけるケアマネジメント研究動向、の5点につき解明した。

分担研究者

岡田進一、大阪市立大学大学院・生活科学研究科・講師
清水由香、大阪市立大学大学院・生活科学研究科・助手

A. 研究目的

本研究では15年度からの障害者ケアマネジメントの本格実施を前にして、12年度、13年度は、身体障害、知的障害、精神障害の各障害分野に応じたケアマネジメント方法と地域におけるケアマネジメントシステムのあり方の解明を目的にした。また、14年度は、これまでのまとめと3障害分野を統合した地域におけるケアマネジメントシステムの構築を目的に研究を企画した。

具体的には、障害者ケアマネジメントの概念・方法の解明、脳外傷を中心とした重度障害者ケアマネジメントの検討、ケアマネジメント実施機関と人材（主に精神保健福祉士）のあり方の解明、各地のケアマネジメント試行事業の分析、知的障害および精神障害のケアマネジメントの歴史のあるアメリ

カにおける方法とシステムの分析、の5点につき、身体障害、知的障害、精神障害分野ごとに検討し、14年度は3障害合同の検討をすることを目的とした。

B. 研究方法

概念研究では、ケアマネジメントの諸概念に関する文献研究（12年、13年研究）を行った。重度障害者ケアマネジメント研究では脳外傷者の家族調査（12年研究）と在宅事例（13年、14年研究）の分析を行った。

ケアマネジメント実施機関の現状分析とあり方の解明では、市町村障害者生活支援事業（12年、13年研究）、障害児（者）地域療育等支援事業（12年研究）、精神障害者の地域生活支援機関である小規模作業所（12年研究）、の3種類の機関を対象にし、調査票を用いた郵送調査と訪問調査を行った。精神保健福祉士を対象にした調査（14年研究）では、調査票を用いた郵送調査を行った。

各地のケアマネジメント試行事業の分析（12年、13年、14年研究）では、知的障害に関わるサービス調整会議の

設置・運営に関する事例研究を行い、サービス調整会議設置・運営指針案の策定を行った。また、精神障害者ケアマネジメント試行事業の分析（12年、13年、14年研究）では、都道府県・政令市を対象に、試行事業の実施状況と課題を把握するための調査を行った。さらに、初年度（12年度）作成した精神障害者ケアマネジメント用具類改訂版の手引きを作成し、改訂された用具類の有用性を検討した（13年研究）。

アメリカにおけるケアマネジメント方法とシステムの研究（13年、14年研究）は、分担研究者の海外派遣と研究協力者の在外研究により実践見学および資料収集を行った。

（倫理面への配慮）

郵送調査の場合は統計的処理を中心に行い、地域事例調査の場合は個人情報特定されない形で資料の整理を行った。

C. 研究結果

概念研究では、関係概念（ニーズ、エンパワメント、自己決定、インフォーマルサポート、アドボカシーなどの概念）とケアマネジメント実践のあり方について考察を深めることができた。

重度障害者ケアマネジメント研究では、在宅の脳外傷者の家族のニーズと必要なサービスを明らかにし、現行の福祉制度と医療制度との課題を分析した。

市町村障害者生活支援事業と障害児（者）地域療育等支援事業に関しては、ケアマネジメント従事者およびコーディネーターを対象にした全国調査を実施し、本人の状況や意思を重視する取り組み（主に、自立生活センターに市町村生活支援事業が委託されている場合に多くみられた）と外部との連携に焦点をあてる取り組みの2種類に大きく分かれた。精神障害分野では、大阪

市における精神障害者作業所全数を対象に訪問調査を行い、日常生活支援と就労支援など幅広く地域支援を行っている実態が明らかになった。大都市における精神障害者地域生活支援センター設置が計画どおりに進まない現状を踏まえると、比較的数の多い社会資源である精神障害者小規模作業所の地域生活支援とケアマネジメント機能を充実させることが今後重要である。精神保健福祉士調査は大阪府と京都府で実施し、教育歴や実践の経験などによっては、ケアマネジメントの理論と方法への理解のある程度深いことが明らかになった。

各地の知的障害のケアマネジメント試行事業の分析では、いくつかの地域類型化の可能性が示唆された。特に、知的障害者のケアマネジメントでは、サービス調整会議が重要な役割を果たしていることが明らかになり、そのための、運営の指針の開発を行った。精神障害のケアマネジメント試行事業の分析では、改訂版用具類の手引き作成とその有用性の検討を行い、2000年に改訂された精神障害者ケアガイドライン用具類の実用性と有用性を、精神保健福祉従事者および利用者である家族を中心に確認した。

アメリカにおけるケアマネジメント研究では、知的障害分野と精神障害分野を中心に、それぞれ先進的な州（ミネソタ州とペンシルベニア州）の実践を分析し、個人中心型ケアマネジメントと集中型ケアマネジメントに関する方法を明らかにした。いずれの方法も、ケアマネジメント実践機関のスタッフの充実と指針（マニュアル）の開発が重要であることが明らかになった。

D. 考察

1) 達成度について

ケアマネジメントの概念研究では、ケアマネジメントの目標概念であるエンパワメントおよびアドボカシーとケ

アマネジメント実践との関係にある程度整理することができた。ただし、これらの概念を組み込んだアセスメント方法を開発することまでは検討が至らなかったことは今後の課題として残った。

重度障害者ケアマネジメント研究では、脳外傷者の家族のニーズと在宅生活支援に必要なサービスを解明することができた。ただし、ケアマネジメントで重要なケアプランの作成については今回検討することができなかった。

地域生活支援事業の調査と各地のケアマネジメント試行事業の分析によって、ケアマネジメント実施機関の現状とそのあり方について分類・整理することができた。今後は支援費制度のもとで、市町村によるケアマネジメント実施のあり方と地域生活支援事業などのケアマネジメント実施機関との関係を検討する必要がある。

精神障害者ケアマネジメントの用具類の検証評価では、2000年に改訂された用具類が関係者にとって有効であることが指示された。しかし、これらの用具類を用いて本格的にケアマネジメントを推進するのは15年度からであり、使用されたあとの検証と評価研究が今後必要である。

アメリカにおけるケアマネジメント研究では、わが国でまだ詳しく紹介されていない個人中心計画と集中型ケアマネジメントの2点を整理・考察することができた。ただし、これらの方法をわが国導入するためには、地域の社会資源の状況などいくつかの条件整備が必要であり、さらに検討を深める必要がある。

2) 研究成果の学術的意義について

本研究はわが国でこれまで明確でなかった障害者ケアマネジメントの概念整理、および、これまで実証的なデータの少なかった障害者ケアマネジメントの現状分析と望ましいあり方の解明

について、障害分野ごとの分析を行い、さらに、最終的に、障害分野を越えた検討を目的とした点で、学術的に意義深いと考える。

3) 研究成果の行政的な意義

本研究は15年度からの障害者ケアマネジメントの本格実施を行うための実践的・理論的基盤整備の必要性を念頭において企画された。また、00年から02年にかけて出版された障害者ケアマネジメント従事者養成テキストの検証を意図した。これらの成果は、今後のテキスト改訂および国・都道府県の障害者ケアマネジメント従事者養成研修に影響を与えることが考えられる。

4) その他特記事項について

主任、分担研究者の多くが厚生労働省障害者ケアマネジメント体制整備検討委員会に関わっており、絶えず国の動向と連携を取りながら研究を推進した。

E. 結論

3年間にわたり障害分野を考慮しながら調査研究を進め、概念整理、重度障害者ケアマネジメント方法、実施機関の現状整理とあり方、試行事業分析による地域推進体制、アメリカにおけるケアマネジメント研究動向、の5点につき解明した。

F. 健康危険情報

この研究は健康危険情報に関するデータおよび資料を扱っていないので、記載すべき事項はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

赤松昭・白澤政和・「高次脳機能障害者に対するケアマネジメントの特徴と課題－家族支援のポイントと戦略－」・介護支援専門員・4(5)、pp.49-52.(2002.9)

赤松昭・小澤温・白澤政和・「ソーシャルサポートが介護負担度に及ぼす影響」・厚生指標 49(11) pp17-22.(2002.10)

鳥海直美・白澤政和・赤松昭・「身体障害者ケアマネジメントの現状と課題」・総合リハビリテーション(2002.12掲載予定)

赤松昭・小澤温・白澤政和・岡田進一・「脳損傷による高次脳機能障害者の特性と介護家族の介護負担度との関連」・日本公衆衛生雑誌(投稿中)

小澤温・白澤政和・社会福祉基礎構造改革と障害者ケアマネジメント・月刊ケアマネジャー・9・pp61-63・2001

白澤政和・障害者ケアマネジメントの今後の可能性・月刊ケアマネジャー・6・pp61-64・2002

2. 学会発表

赤松昭・小澤温・白澤政和・在宅で遷延性意識障害者を介護する家族の介護負担の構造-The Burden Interviewを用いて-・第5回日本在宅ケア学会(2001)

小澤温・島村直子・白澤政和・知的障害者に対するケアマネジメント実践の特徴と実践上の課題・日本発達障害学会・第36回大会(2001)

赤松昭・榎本悠孝・畑智恵美・小澤温・白澤政和・市町村障害者生活支援事業における障害者ケアマネジメントの現状と課題・日本地域福祉学会第16回大会(2002)

榎本悠孝・小澤温・白澤政和・今後の精神障害者小規模作業所のあり方に関する一考察・日本社会福祉学会第50

回大会(2002)

H. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む) 特になし。

別添 6

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小澤温	障害者領域におけるケアマネジメント	白澤政和	ケアマネジメント論	全社協	東京	2002	125～ 135
小澤温	身体障害者とケアマネジメント	白澤政和	ケアマネジメント	中央法規 出版	東京	2002	128～131

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
赤松昭、白澤政和	高次脳機能障害者に対するケアマネジメントの特徴と課題—家族支援のポイントと戦略—	介護支援専門員	4 (5)	49-52	2002
赤松昭、小澤温、白澤政和	ソーシャルサポートが介護負担度に及ぼす影響	厚生の指標	49(11)	17-22	2002
白澤政和	障害者ケアマネジメントの今後の可能性	月刊ケアマネジャー	6	61-64	2002